

課題解決型高度医療人材養成プログラム 事業の概要と推進委員会からの主なコメント

〔取組1〕医師・歯科医師を対象とした事業
 (1) 横断的な診療力とマネジメント力の両方を兼ね備えた医師養成
 テーマ：病院経営支援に関する領域

	整理番号	9
申請担当大学名 (連携大学名)	横浜市立大学	
事業名	都市型地域医療を先導する病院変革人材育成	
事業責任者	附属市民総合医療センター病院長 後藤 隆久	
事業の概要		
<p>本事業では、経営に意欲のある者、特に病院長・幹部候補者の育成のために、医療安全、医療政策、医療経営に関する体系的な知識を学ぶ機会と、履修生の希望に合わせ特に注力したい専門分野を学ぶ機会を用意する。それに加え、横浜市というフィールドを用いて実際に地域や大学病院の経営課題に取り組み、指導者や履修生との議論の中で能力を高めていくことを重視し、以下に取組む。</p> <p>①病院長・幹部候補者になるための要件としての変革人材履修証明プログラムの開発 ②大学病院長が先導する経営改善プロジェクトに参画し、自らの考えで経営課題を解決するケーススタディ演習の実践 ③自治体行政などと連携した都市の地域医療システムを議論する場に参加した問題解決と提言能力の養成 ④横浜型育成モデルとして、蓄積した教材とケースをその後の履修生教育および他地域へ波及</p>		
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等		
<p>○今後の高齢者の増加に対する問題認識は的確であり、地域の医療環境の中での自院の戦略的なポジショニングを考えた大学病院の変革などの方向性が明確に見える事業内容で、評価できる。</p> <p>○国際マネジメント研究科等との連携など、国際マネジメントの視点があり、今後の日本の医療において必要な人材育成でもあり新規性が高い。</p> <p>●現状の大学病院の最重要問題であるガバナンス・組織論などについても、病院の幹部を目指す人材像として必要な能力である。</p> <p>●教育内容に関して、横浜市立大学附属病院及び附属市民総合医療センターの病院経営会議で同定された経営課題に取り組むとし、本プログラムの修了をこの2病院の病院長等幹部になるための選定要件としている点や、他大学の履修生の受入が3年目以降となっている点など、学内向け事業の性格を有しており、補助金による事業の波及効果が低いと考える。</p>		